昆　虫　類

昆虫類は、落葉樹林帯～高山帯に生息する 179 科 2,871 種が確認されています。

絶滅のおそれのある種（IUCN・環境省・県のレッドデータブック等掲載種）

ミヤマシロチョウ　■○●★◆

撮影／高橋真弓

クモマベニヒカゲ　○●★◆

絶滅のおそれのある種として、昆虫類 133 種が確認されています。これらの種は、生息環境の悪化による個体数の減少がこのまま継続すると、絶滅の可能性が高いと予測されています。

南アルプスには、クモマツマキチョウ、ミヤマシロチョウ、タカネキマダラセセリ、クモマベニヒカゲ等の高山蝶７種が生息していますが、環境省（レッドリスト）では「絶滅危惧種」等として掲載され、南アルプスが分布の南限となっています。

分布が限られている種（日本固有種、南アルプス限定種、本州中部限定種等）

ルリボシカミキリ　★

ヒロガワラツヤムネハネカクシ　★

南アルプスに生息する昆虫類には、日本固有種や分布の限られた種（亜種含む）が多く、大陸と陸続きであった時代に渡ってきた昆虫類が、日本列島として分離された中で、種レベルまで分化していった過程を表しています。

特に、オサムシ類やハネカクシ類など地表性甲虫類の多くは、進化の過程で飛翔能力を失ったため、地理的隔離による種分化が進んだと考えられます。また、寒冷な地域に生息するチョウ類やカミキリムシ類は、日本では亜高山帯～高山帯の狭い範囲に氷河遺存的に分布しています。

生息地に定着する種

ミネトワダカワゲラ　●★

ガロアムシ　★

撮影／石井克彦

昆虫類の中には、ごく狭い範囲で一生を終えるものもいて、寒冷地の遺存種、翅をもたない種、特定の生物への依存種などは定着性が高いといえます。

南アルプスには、幼虫期は冷水中で過ごし変態後も翅をもたないミネトワダカワゲラ、後翅を失い地表性となったタニグチコブヤハズカミキリ、土壌や洞窟等で地下生活のガロアムシ、ヒメオオズナガゴミムシ、タカネメクラチビゴミムシ等が生息しています。なお、定着性を高くすることで生き残ってきた昆虫類は、地域個体群の絶滅がその種の絶滅につながる可能性が高いので、その生息地は保全上重要な場所となります。

特定の植物を餌とする種

クモマツマキチョウ　■○●★◆

撮影／高橋真弓

クジャクチョウ　★

昆虫類の中には、特定の植物に頼って生活しているものが多くいます。クモマツマキチョウはヤマハタザオやミヤマタネツケバナ等のアブラナ科植物、クジャクチョウはミヤマイラクサやアカソ等のイラクサ科植物というように、多くのチョウ類は幼虫の食草が決まっていて、食草のある場所でなければ繁殖ができません。一方、甲虫のゾウムシ類は、１つの植物でも葉や髄、種子、果実、花、朽木等の部位のいずれかを専門に食べるように高度に種分化しています。

南アルプスの植生の豊かさは、チョウ類やガ類、ハムシ類、ゾウムシ類などの植食性昆虫に生息場所を与え、多様な種の生息を支えています。

法令や条例で保護されている種■、IUCN◎・環境省○・県●のレッドデータブック等の掲載種、分布限定種（日本固有種等）★、南限種◆